

SEPARELはブレーキフルードの脱気充填に革命をもたらします

ブレーキフルード（BF）はブレーキペダルの踏力を油圧でブレーキ装置に伝達するオイルです。BFは気体が混入するとブレーキに圧力が伝わり難くなるため脱気が必要です。

現状、自動車工場のBF充填工程では、大容量の真空タンクを用いて数時間の真空脱気処理を実施した後、充填されています。

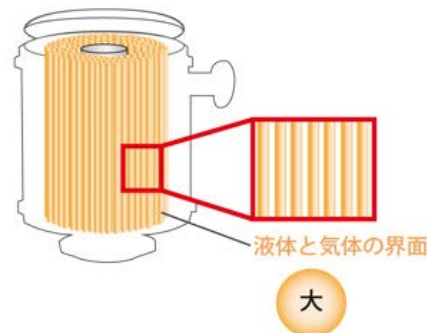
SEPARELはこの従来法から生じる問題を解決することで、BF充填現場に革命をもたらします。

【膜脱気のアピールポイント】

容器を用いた場合の界面



中空糸を用いた場合の界面



導入例

1.装置のコンパクト化

サイズ: 1/160

2.導入コスト削減: 1/3

3.脱気に要する保管時間削減

約4 h ⇒ 0 min 揮発変質の抑制

4.充填直前の脱気が可能

脱気タンクの場合、充填までに滞留があると洗浄が大変

5.充填フルードの脱気度判断が可能

脱気タンクの場合、下端部の脱気度レベルの判断不可(低い)

【長期脱気性能】

SEPARELはジェットインク用途で長年培った耐久性および性能を有することで、BFの長期使用を可能にしています。使用条件の変更により、安定した性能コントロールが可能です。

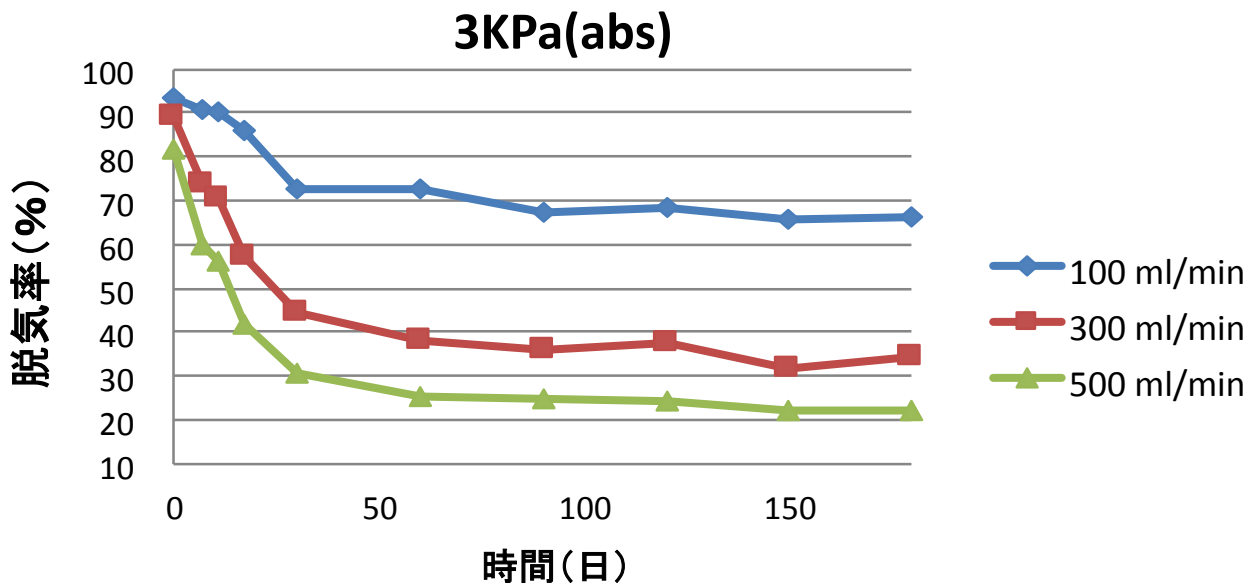
- 以下条件でブレーキフルードの脱気テストを行った。
- 液体：ブレーキオイル FMVSS NO.116 DOT4
- 使用モジュール：EF-G5
- 流量：100～500ml/min
- 真空度：3kPa(abs)
- 目標：300ml/min, 3kPa(abs) <50%
- 結果：70%程度の脱気率を確認した。
60日程度で実力値となることが示唆された。

脱気率：DO(溶存酸素量)の変化率

$$\text{脱気率(\%)} = \left(1 - \frac{DO_{\text{final}}}{DO_{\text{initial}}} \right)$$

DO_{initial}: 脱気前の溶存酸素量

DO_{final}: 脱気後の溶存酸素量



- 本資料記載のデータは御参考までに掲げた一例に過ぎません。
- 本資料は、弊社内試験及び信頼し得ると思われるデータによるものではありますが、その正確性について責任を負うものではありません。ご使用者様の責任のもとで最終的にご判断いただき、ご使用ください。
- お客様でのご使用、設置、その他の取り扱いにつきましては、当社では一切の責任を負いかねます。お客様の責任において、ご使用、設置、お取り扱いください。

www.separel.com

DIC株式会社
アプリケーションマテリアル製品本部 メンブレン営業部

〒103-8233 東京都中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル

お問い合わせ： TEL：03(6733)5944 FAX：03(6733)5960
membrane-inquiry@ma.dic.co.jp

